

領域2「学術情報資源共有のための図書館間文献デリバリーサービスを機関リポジトリ構築によって代替するための教員・図書館連携方式の開発」活動報告
小樽商科大学・北海道大学・千葉大学・金沢大学・大阪大学・広島大学

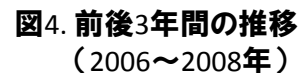
IRでは本学教員の書いた論文を無料で公開している。一方、ILL文献複写では1枚35円等費用を課している。では、ILLで依頼されたのが本学教員の著作だったら？先生方の書いた論文がより多く読まれることを業務上の喜びとするなら、オンライン(IR)だけでなくオフライン(ILL)でもどんどん無償サービスしたらよいのでは？

図1. ILLとIRの特徴比較



- ・NACSIS-ILLデータ3年間分に基づく分析
- ・大量のリクエストが集中する人気文献の存在
- ・最上位クラスは年をまたいで安定

図3. 2007年のILL人気文献



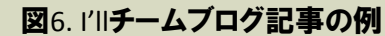
- ・人気文献著者へのアンケート(2010年)
・「著作権法上許されているとしたら、あなたの論文を所属機関で無料公開することについてどう思う」
→回答者19名中16名が「公開したい」

・DRF参加機関のIR担当者、ILL担当者へのアンケート(2008年)

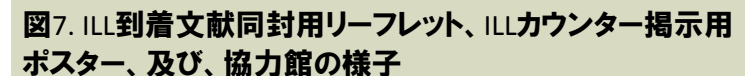
「利用者だけでなく図書館内においても(特にILL依頼担当者)、今後、オープンアクセス文献やIRの知識を得て、担当者間の連携をはかり、情報を共有する必要があると思います」などの声



・IRとILLをともに担当する職員、
双方の業務連携に関心をもつ
職員による情報共有・意見交換



- ・オープンアクセスウィーク2009への参画
- ・ILLをきっかけとしたOAへの認識向上を図る資料を全国大学図書館へ頒布



- ・伝統的図書館活動とオープンアクセス思潮との融合への気運の向上をはかった
- ・一方、電子ジャーナル契約形態の多様化など、OAと図書館活動の接点はますます増大しつつある
- ・引き続きDRF等のコミュニティで議論を深め、持続的な意識喚起をしていくことが必要